

女性アスリートの 心理面・精神面のサポートとケア

待鳥 浩司

Summary

アスリートの心理的特徴についてスポーツ心理学の知見を引用し、症例や元選手のインタビューを用いて女性アスリートの辿りやすい心理的経過について概説した。彼女たちのなかには初経の遅れや無月経などの月経異常を主訴に医療を受ける機会をもつ者もいると思われる。競技レベルによらず、診断および治療に際しては婦人科医も症状背景に競技との関連を視野に入れておくことが勧められる。アスリートは一見さわやかで健康なイメージをもたれがちであるが、その裏にある傷つきを丹念に拾い上げ治療していく必要がある。

Key words

female athlete
mental care
menstrual disturbance
achievement by proxy
disordered eating

Koji Machidori
まちどりクリニック院長

はじめに

アスリートは一般人に比して独特の心理的特徴を有し、アスリートの心理臨床家である中込はその豊富な臨床経験からいくつかの特徴を挙げている¹⁾。そのため、臨床場面において独特の注意を要する。そのなかで女性アスリートの臨床において注意すべきと思われる点に注目して、症例を引用して述べてみたい。なお、狭い世界であるため本人が同定されない工夫を施し、複数のケースを統合してAと表現している。

症例

20歳代前半女性A。競技は個人種目の審美競技。幼児期に同競技を開始。学校が終わると教室に直行する日々で友人関係はほとんどもてなかった。頭角を現した小学校高学年からは特定のコーチに付き、甲斐あって小学6年時に全国優勝。その後は海外遠征や合宿が増え、元々道具代も高価な種目であったため父親の収入では苦しくなった。残業を増やして収入増を目指したものの、労働量とともに飲酒がエスカレートし、しばしば母親に暴力を振るうようになったが、母はじっと耐えるのみであった。元々酒乱の傾向があったため、Aはこれを機に父親とほとんど会話ができなくなった。

体型を細く保つ必要があったため、この頃から食事のコントロールが始まり、月に数度の過食嘔吐エピソードも混じるようになった。初経は中学